

広島大学 校友会だより

第11回 広島大学
ホームカミングデー
報告

特集

仮想 DC
ドリームチャレンジ!

先輩インタビュー

脚本家

遊川 和彦 さん

(1978年 政経学部卒業)

校友会SUPPORT FILE

広島大学心身統一合気道部

チームしょくいくいく

校友会レポート



Hiroshima University Alumni Association

広島大学校友会

第11回 広島大学ホームカミングデー報告

平成29年11月4日(土) 東広島キャンパス

平成19年の第1回から、広島大学ホームカミングデーは「11月の第1土曜日」に開催しています。平成29年の第11回は11月4日。文化の日と日曜日にはさまれて「行楽シーズンの3連休」という人も多いなか、例年どおり3,000人以上が東広島キャンパスを訪れてくださいました。



ホームカミングデースペシャル

サタケメモリアルホール

講演会

「エジプト発掘の魅力」

吉村 作治氏

東日本国際大学学長

早稲田大学名誉教授

毎回、ゲストスピーカーをお招きして、それぞれ独自の視点からのお話をうかがう講演会。

今回は、半世紀にわたってエジプトの遺跡発掘と関わってこられた吉村作治先生が、貴重な写真を使いながら、時を超えた古代文明との出会いを語ってくださいました。



ensemble [KYO-ON] ミニ演奏会

講演会に先立ち、教育学研究科生による特別編成のブラスバンドが、アイダの『凱旋行進曲』などエジプトを舞台にした楽曲を演奏。客席から「ブラボー」がかかるほどの熱気あふれる演奏で吉村先生をお迎えました。



広島大学校友会だより Vol.23

C O N T E N T S

第11回

広島大学ホームカミングデー報告 …… 1-4

11月4日(土)、東広島キャンパス(東千田・霞町キャンパスは11月11日(土))で開催されたイベントの様子を写真でご紹介します。

特集 仮想DC ドリームチャレンジ! … 5-8

ドリームチャレンジ賞への申請から報告までをシミュレーション。審査委員長と受賞者がそれぞれの視点からアドバイス。

校友会SUPPORT FILE …… 9-10

第10回課外活動援助団体 広島大学心身統一合気道部

第10回ドリームチャレンジ賞受賞 チームしょくいく



学長ご挨拶

オープニングセレモニー

サタケメモリアルホール

表彰式



表彰を受けられた方々

●広島大学長表彰

我妻 秀治 (株式会社デンソー 半導体回路開発部長)
宮武 稔
(日東電工株式会社 全社技術部門新規事業本部
ベースイノベーション技術センター長)

栗井 和夫 (大学院医歯薬保健学研究科 教授)
池田 俊明 (大学院理学研究科 助教)
石原 康宏 (大学院総合科学研究科 助教)
泉 雄大 (放射光科学研究センター 助教)
磯崎 哲夫 (大学院教育学研究科 教授)
片桐 清文 (大学院工学研究科 准教授)
静間 清 (大学院工学研究科 特任教授)
灰野 岳晴 (大学院理学研究科 教授)
林田 真志 (大学院教育学研究科 准教授)
細野 賢治 (大学院生物圏科学研究科 准教授)

Mattausch, Hans Juergen

(HISIM研究センター センター長 (ナノデバイス・ハイ
オ融合科学研究所 教授))
水沼 正樹 (大学院先端物質科学研究科 准教授)

●広島大学長特別表彰

高橋 弘充 (大学院理学研究科 助教)
水野 恒史 (宇宙科学センター 准教授)

●Phoenix Outstanding Researcher Award

植村 誠 (宇宙科学センター 准教授)
岡部 信広 (大学院理学研究科 助教)
鹿嶋 小緒里

(大学院医歯薬保健学研究科 助教)

佐久間 哲史 (大学院理学研究科 特任講師)

田中 智行 (大学院工学研究科 助教)

TRAN DANG XUAN

(大学院国際協力研究科 准教授)

中堅 三弥子 (大学院先端物質科学研究科 准教授)

●広島大学教育賞表彰

藤原 章正 (大学院国際協力研究科 教授)
町田 章 (大学院総合科学研究科 准教授)
松下 毅彦 (大学院医歯薬保健学研究科 准教授)

平和と自由の鳩

広島大学の学生、留学生、教職員が、原爆被爆者と協働で制作したオブジェが披露されました。この後、オブジェは東広島キャンパス法人本部棟ロビーに展示されています。



大学歌合唱



先輩インタビュー…………… 11-12

脚本家

遊川 和彦さん (1978年 政経学部卒業)

「家政婦のミタ」「過保護のカホコ」などテレビドラマの話題作を次々と送り出してきた脚本家が「もしタイムマシンがあったら、大学でしたいこと」とは。

広大ネットワーク…………… 13-14

広島大学・千田塾交流会／関西フェニックスの会講演会／東京オフィスでもオリジナルカープグッズ販売 など

校友会レポート…………… 15

平成29年度 学生支援報告

第11回 広島大学ホームカミングデー報告

平成29年11月4日(土) 東広島キャンパス

手つなぎ写真

「卒業生や在学生の写真でキャンパスを飾ろう」——
代々の学生チームに受け継がれているミッション。
第11回も約70人の先輩などを撮影させていただきました。



校友会学生チームおもてなし企画

サタケメモリアルホール前の広場は卒業生と在学生の交流の場。



お好み焼き販売

学生チームスタッフが特訓を重ねて焼き上げ、
ハーフサイズ300円で販売するお好み焼き。
第11回も完売しました。



広大しゃべり場

来場者にメッセージをいただきながら、思い
出話などを聞かせていただく企画。「思っ
ていた以上に卒業生の皆さんと話ができた」
と学生チームも満足。

野外ステージ

音楽演奏や大道芸、書道など、クラブ・サー
クルの在学生たちが特設ステージでパフォー
マンスを披露。



連携市町の物産展

広島大学と連携協定を結んでいる市町から自慢の物産がズラリ。広島
大学生協、広島大学・千田塾も協賛出展して多くの人でにぎわいました。



懇親会

サタケメモリアルホールに続く学士会館レセプションホールで会費
制による懇親会を開催。



**総合科学部・
総合科学研究科**

- 留学報告会
- 国際共創学科の紹介 など



文学部・文学研究科

- 文学部で味わう
世界のティータイム



教育学部・教育学研究科

- 共にまなぶ・はたらく・くらすⅢ
(特別支援教育学講座)



- オペラ「魔笛」
(音楽文化教育学講座)



学部・研究科企画

卒業生や在学生保護者、さらには一般の皆さんに向けた独自のイベントを開催。

**法学部・経済学部・
社会科学部**

- 講演会
「不正経理はなぜなくなるのか」



理学部・理学研究科

- 理学部生物科学同窓会記念講演会
(生物科学科)



- ホームカミングシンポジウム
(地球惑星システム学科)



工学部・工学研究科

- 保護者のための
オープンキャンパス



**生物生産学部・
生物圏科学研究科**

- 食料・環境問題
国際シンポジウム



先端物質科学研究科

- 研究室公開
- パネル展示
- 講演会



国際協力研究科

- IDEC Open Day 2017
Welcome to IDEC
～世界の国からコンニチハ!!～



**広島大学文書館
「広島大学の歴史」展**

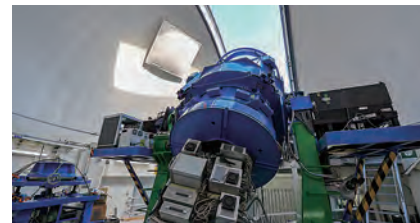


サタケメモリアルホールロビー

**放射光科学研究センター
(HiSOR) 見学**



**東広島天文台観望会
宇宙科学センター見学**



平成29年11月11日(土) 東千田キャンパス

法務研究科

- 法科大学院講演会
「裁判の実際～裁判官が大切にしていることを中心に～」



平成29年11月11日(土) 霞キャンパス

霞地区合同

医学部・歯学部・薬学部・医歯薬保健学研究科・
原爆放射線医科学研究所・大学病院

- 講演会
「心臓病のいまとみらい」



特集 仮想

DC

ドリームチャレンジ賞

ドリームチャレンジ!

広島大学校友会が実施する事業の一つに「ドリームチャレンジ (DC) 賞」があります。校友会員在生から提案を募り、審査で採択されたものに助成金を授与するもので、広島大学同窓会との共催。毎年応募して活動資金を獲得しているクラブもあれば、「研究資金に」と思っているチームや「企画をカタチにしたい」とチャンスをさがっている個人もいるはず。

DC賞応募のAからZを審査委員長と受賞経験者のアドバイスをもとにシミュレーションしてみました。



仮想応募者

広大学生 あゆみ
広大学生 ユウタ

同じゼミに所属する2人。課題について話しているうちに、ある本を執筆した先生に直接話を聞きたいと思うようになりました。しかも、先生は広大の先輩。思い切って先生にメールをしてみると「会ってお話しましょう」とうれしい返事。

「先生と話せるならゼミのみんなにも声をかけよう」とあゆみが言い出し、「先生のトークセミナーをやろう!」と、話がどんどんふくらんでいきました。

「スケジュールが合えば、広島に行ってもいい」という先生の言葉に、2人は「ドリームチャレンジ賞に応募しよう」と決心したのでした。

イラスト：
妹尾心(総合科学部4年)



DC賞審査委員長

桂 彬真さん

工学部機械工学科卒業。体育会、体育会同窓会の設立に中心的な役割を果たし広島大学同窓会理事も務める。現在広島大学校友会常任理事。



第9回DC賞受賞

舩田 菜緒さん

東広島市出身、法学部4年。国際協力やボランティアに関心を持っていた。広大入学後、ネパール大地震被災地への募金活動に参加するが、継続的な支援の必要性を痛感し、独自の支援活動企画でDC賞に応募した。

応募要項発表 (平成29年度は6月)

〈申請〉でチャレンジはスタート!

DC 賞応募要項が学生生活のポータルサイト「もみじ」に掲載されます。目標に向けて資金の助成を希望する学生(校友会員)の活動がここからスタートします。

POINT

1

応募要項をしっかりとチェックしよう

応募資格は?
対象となる活動?
活動期間は?
締切は?

活動期間は
DCに合わせて
計画すれば
いいね

締切を
忘れないように
しなくっちゃ



POINT

2

応募申請書の様式に沿って書く

DC 賞は申請書で審査し採択プロジェクトを決定します。次の内容が分かるよう、申請書の項目にしたがって記入します。

- ①どんな活動をしたいのか
- ②どんなスケジュールで具体的な活動を進めるのか
- ③助成金をいくら申請するか
- ④資金をどのように集めてどう使うか

審査委員長
から

「やりたいこと」と同時に「やる力があること」を伝えることが大事です。申請書の記入項目に沿って書けば伝わるはずですが、中には自分たちの計画の概要だけを述べているものや、収支予算の記載がずさんなものもあり、これでは採択できません。

申請書なんて
書いたことない
書けるかなあ

受賞者から
アドバイス

まず、なぜこのプロジェクトをやりたいのかを自問自答しました。根拠がしっかりしないと「やりたい」と言っても浮わつたものになると思います。

もう一つ、実現の可能性をできるだけ具体的に表現するよう気をつけました。

舩田さんの申請書



先生に
アドバイスを
もらおうよ



POINT

3

期日までに申請書を提出する

広島大学同窓会事務局宛にeメールで提出します。

受賞者から
アドバイス

先生や先輩にアドバイスをいただいて申請書を提出。幸い、採択されましたが、申請どおりの助成金をいただくことはできませんでした。でも「絶対にやりたい!」と思っていたプロジェクトです。自費負担を増やしてもやるつもりでした。

審査委員長
から

審査は**1.独創性**、**2.ドリーム性**、**3.チャレンジ性**、**4.発展性**、**5.計画の妥当性**、**6.社会貢献性**、6つの基準で5人の審査員が評価して上位のものから採択します。「できるだけ多くのプロジェクトを支援する」という方針で採択件数が増えており、希望どおりの支援ができない場合もあります。

審査発表 (平成29年度は9月)

計画にそって実際の活動が始まります。

支援が決まったプロジェクトの代表者に助成金を贈る授与式を行い、プロジェクトの指定口座に助成金が振り込まれます。その後計画を実施に移して翌年9月末までに完了させます。

POINT

4

活動の記録をとっておこう。

DC賞は広島大学校友会の資金を活動費として提供しますので、活動と収支の報告をしていただきます。必ず記録に残し、資金の出納は領収書を保存しておきましょう。

先生と打合せをして
トークセミナーの日時を決める。
会場を決めてポスターを作り
聴講する人を集める。
先生のチケットと宿泊の手配をする。
当日の会場で必要な
マイクやプロジェクターを用意する。
やることがいっぱい!
……抜けてることはないかな。



審査委員長から 企画を実現するためには計画と実行力、特に人を動かす折衝力やリーダーシップが必要です。プロジェクトの実現を通して、こうした力が養われていくはずですよ。

受賞者からアドバイス 申請時に完ぺきな事業計画ができていたわけではなかったし、実際にプロジェクトを進める段階になってうまく行かないことが多いので、その都度計画を見直し、作り直ししながら進めました。

POINT

5

報告発表までがプロジェクトです。

プロジェクトが終了したら報告書をまとめ報告会で発表します。審査員や受賞者を前にプレゼンテーションします。



受賞者からアドバイス 報告では「できたこと」と「できなかったこと」を分けました。反省も多々ありますが、今後もプロジェクトを継続して当初の目標を実現させたいと、報告に付け加えました。
舛田さんの報告用プレゼン資料

審査委員長から DC賞のコンセプトは「夢に挑戦する活動を支援すること」。夢を持つこと、夢に挑戦することが重要で、成果を評価するものではありません。そして、できればプロジェクトを後輩たちが受け継いで継続してほしいと願っています。

「ドリームチャレンジ賞」のスケジュールは年度により異なる場合があります。「応募要項」をご覧ください。

ドリームチャレンジ賞、2つの視点

DC賞
プロジェクトを
終えて

ソーシャルビジネスで ネパールの復興を支援するプロジェクト 舛田 菜緒さん



2015年4月、ネパールは大地震で大きな被害を受けました。私は募金活動を手伝ったのですが、一時的なボランティアより長期的な支援が必要ではないかと感じました。そのために、ネパールの人々の雇用を創出し収入を増加させる「ソーシャルビジネス」を企画したのです。ネパールで製作した商品を日本で販売し収益をネパールに還元するプロジェクトで、10年前にバングラデシュでソーシャルビジネスを立ち上げた女性と、慶應大学の学生団体の活動がヒントになりました。

DC賞から助成金をいただき、ネパールで買い付けた商品を大学で販売することはできましたが、ビジネスと言えるほどには至っていません。でも、ネパールの復興や発展をビジネスで応援する体制をなんとか確立させたいと思っているので、プロジェクト終了後も活動を続けています。

プロジェクトを通して学んだことは多々ありますが、さまざまな方と出会うことができたのが何よりもよかった。いつになるかわかりませんが、将来はネパールでビジネスを立ち上げたいと思っています。



●舛田さんは現在ネパールの商社で半年間のインターンシップ中。メールでの取材となりました。

DC賞
審査委員長
から

DC賞のスタートは 「卒業生から在学生へのプレゼント」 桂 彬真さん



「大学に活気を、学生に活力を」というキャッチフレーズで広島大学同窓会が企画し、資金集めのために同窓会大会を開催して1,000万円をつくったのがDC賞の始まりです。第4回からは、校友会が事業を受け継ぎ毎年継続して実施されていますが、底流には「卒業生から在学生への贈り物」という性格が受け継がれています。だから、成果への報奨ではなく提案を評価する。たとえ計画が達成できなくても返金は「なし」です。

ただ、校友会の大切な資金を使うわけですから、活動のプロセスと、そこから何を得たかはしっかりチェックします。報告会を開催して受賞者に発表してもらうのはそのためです。

ビジネスでは、企画を立案・提案し、実施、そして結果というプロジェクトの流れは日常的に経験します。DC賞は、学生時代にそれを経験できる機会だと思って積極的にチャレンジしてください。

●平成29年度第11回のドリームチャレンジ賞受賞者と活動テーマは15ページに掲載しています。

自分に向き合い心をしずめる日々の稽古 精神を磨いて高みを目指したい

第10回
課外活動援助団体

広島大学心身統一合氣道部



一点に集中して心と身体を統一し、全身の力を抜くと男性二人がかりでも持ち上げることができない。



投げと受けが呼吸を合わせて技の稽古。投げたり押さえつけたり激しい運動だが声はなく、すり足と体を畳に打つ音だけが道場に響く。



主将 坂田 龍馬(工学部4年)
中学までは野球少年だったが大学に入ってから合氣道を始めて現在
三段。大会でも常に上位に入る実
力者。



副将 柳澤 宏郁(教育学部3年)
「合氣道の精神が好き」ときっぱり。
撮影では受け身に徹してくれたが自
身も初段。「心得がないとケガをし
ます」

戦わない武道

「合氣道は戦わない武道です」と、広島大学心身統一合氣道部の坂田主将。戦いより「氣」で相手を圧倒することを重視する武道なのだそう。

しかし、稽古では投げたり手をねじり上げたり……これは戦いではないのでしょうか？

「もし攻められたら相手の氣を導いて投げる。そのための稽古で、決して勝つことが目的ではありません」

確かに、目の前で小柄な女子部員が男子部員2人をコロリと転がしています。相手の呼吸を読んで技をかけるので、体格や体力は関係なく相手を制することができるそうです。護身術として合氣道を始める女性もいるとか。稽古では技を何度も繰り返して、体に覚え込ませます。

型に精神が現れる

しかし、心身統一合氣道部は全日本競技大会の個人の部、団体の部で銀賞を獲って、校友会の「課外活動援助金」を獲得したはず。戦わないのに“賞”？

坂田主将が説明してくれました。「大会では“型”で勝負を決めます」。

型は精神性の表現。心をしずめ氣を読んで間を測りながら、投げと受け身でペアを組んで演武する。その一連の動きを審判が評

価するので。

実際、全国大会個人の部で銀賞を獲った牟田さんは小柄な女子学生。受け身を務める柳澤副将によると「自分の力に頼るのではなく相手の気持ちを測って技をかける武道だから」だそうです。ポイントは、合氣道独特の力の抜き方なのとか。

自分を好きになった

部員は13人。坂田主将、柳澤副将をはじめほとんどが入学してから合氣道を始めました。「精神性を重視する武道というところに惹かれた」と言う部員が多いのも、心身統一合氣道部の特長でしょう。強くなるのに比例して精神的にも成長できると聞けば、未経験でも「やってみよう」と興味をそそられるし、稽古にも熱が入ろうというものです。

この日の稽古に参加していた女子部員からも「型の稽古は終わりが無い。だから、稽古すればするほど興味が深まる」「相手の間合いを読むので人への気配りができるようになった」「自分のことを好きになった」と、こちらも精神的なプラス評価が次々と出てきました。

1年生は部費負担なし

しかし、精神を成長させる武道であっても活動すれば費用が発生します。競技会に出場するには遠征費がかかるし指導を仰ぐ師

範への謝礼も必要。そうした活動費は部員たちが2000～3000円を頭割りりで負担しているのですが、これが“一律”ではなく、1年生は「負担なし」。下級生に軽く上級生がそれをカバーする体制も、心身統一合氣道部の優しさの伝統と言えるのかもしれない。

寄付や援助金を獲得できれば、部員たちの負担は軽減されるはずですが、今年度は全国大会で上位に入賞することができず、援助金を獲得することができませんでした。来年度こそは、秋の全日本競技大会で上位入賞を果たして援助金を獲得したい——「そのために頑張っているのじゃない」と水を向けても笑い顔でいなされました。稽古に励む部員たちの視線は、そんな計算よりも自分の心の強化に向いているようです。

コースで受け継ぐボランティア活動 「食物アレルギーの子どものデイキャンプ」

第10回
ドリームチャレンジ受賞

チームしょくいくいく



デイキャンプの食事。日々使用する調味料にもアレルギー物質が入っており、メニューづくりには苦労した。



野菜の絵本を使って子どもたちの食べ物への興味を引き出す。デイキャンプのレクリエーションプログラムもチームメンバー全員で企画した。



「チームしょくいくいく」のメンバー
この調理実習室で、食物アレルギーの子どものための料理を何度も試作して本番のデイキャンプに臨んだ。
写真左から松山ちひろさん(3年生)、小塩真央さん(2年生)、西田彩乃さん(4年生)、棚橋ほのみさん(4年生)

食育の学びを活かす

「チームしょくいくいく」は教育学部第四類人間生活系コースの在学学生有志が受け継いできた活動。「食物アレルギーの子どものためのデイキャンプを実施する」プロジェクトです。

卵や小麦粉などのアレルギーを持つ子どもは、普段は食べるものに制約がありますが、デイキャンプでは、保護者や学生スタッフと一緒に料理を作り、アレルギーを気にすることなくみんな同じものを食べて遊びます。そこには、「食材の知識を持てば、アレルギーに負けることなく生活できる。子どもたちに、体験を通してそれを実感してほしい」という願いがこめられています。「食育を学ぶ人間生活系コースらしいボランティア」とチームは胸を張ります。

資金計画の柱

チームは立ち上げ時からドリームチャレンジ賞の助成金で活動しました。

野外施設を運営するNPO、ドクターや管理栄養士の方など、プロジェクトには学外の協力も不可欠で、キャンプ実施の費用やチームスタッフ自身の交通費など、活動には費用が必要です。さらに重要なのが事前の試作。

子どもの好きな料理を、小麦粉や卵などアレルギー物質を含まない材料で、子どもの好む味に上げるために、スタッフは何度も試作を重ねます。アレルギー物質を完全にシャット

アウトするため、調理に使用する鍋や包丁などの調理器具も、新品を揃えなければなりません。

「プロジェクトを通して考え方が変わりました。資金計画も含め、継続して回るための“仕組み”をつくっていくことが次の課題だと思っています」とリーダーの棚橋さんは言います。

子どもとのふれあい

教育学部第四類人間生活系コースは家庭科の教員養成が主目的のコース。サブリーダーの西田さんも中学の教員を目指しています。「先生になるためにも子どもと関わりたい」と参加しました

逆に「子どもが好きだから」と参加した3年生の松山さん。保育所でアルバイトをしており、子どもとの触れあいでも自分の持ち味が活かせると考えました。

スタッフは事前に、東広島市郊外の施設に通い、野外活動に参加しながら子どもたちとの接し方を体験しました。西田さん、松山さん、学びはありましたか？

「子どもに伝わらないこともあるなど気づきは大きかった。それ以上に、子どもたちに対する責任感を強く感じました」(西田さん)

「やっぱり、私、子どもが好きなんだと再確認しました。1日だけでなく継続して活動できるよう考えたい」(松山さん)

チームしょくいくいくの活動は、メンバーの“職育”にもつながっているようです。



5～6歳の子ども6人に対して学生スタッフは9人。クイズなどでアレルギー物質についての知識を広げる。

次代のプロジェクト

キャンプ当日は参加できなかったメンバーがいました。ボランティア希望の小塩さんです。残念でしたね。

「いいえ、事前準備を経験したので次につながります。計画を立ててそれを実施するプロセスとか、調理メニューを作って試作する方法など、実は、本番前が重要なんです。それがよく分かりました」

デイキャンプに参加した保護者から寄せられた感謝の感想文を読んで自分たちのやってきたことの成果を実感しました。

次は松山さんや小塩さんが中心となってプロジェクトを動かすはず。ドリームチャレンジ賞の応募申請書を楽しみにしています。

脚本家

ゆ かわ かず ひこ
遊川 和彦さん

(1978年 政経学部卒業)



本を読もう。人と会おう。
人間力を磨こう。
何かを「やろう！」と思ったとき、
それが武器になる。

『女王の教室』『家政婦のミタ』『過保護のカホコ』など、テレビドラマの話題作を送り出してきた脚本家の遊川和彦さん。はじめは「学生時代を語るには、ぼくは適任じゃない」と固辞されました。最終的に引き受けてくださったのは「自分の力だけで勝負してきた先輩もいることを若い人に知らせたい」という趣旨を納得してくださったから。「この年齢になったから言える」——遊川さんには、若い人たちに伝えたい思いがあるようです。

スターになる!

自慢できるような大学生活じゃなかったですよ。入学して東千田のキャンパスに立ったとき、うれしいという気持ちはあったけど、同時に、何か違和感があった。ここから、どこへ進めばいいのか分からないという違和感です。実際、これといった目標もなく進学してしまっ

たものだから、勉強にも身が入らず成績はブービー賞。留年して雀荘通いをする毎日だった。

でもね、自分の道を見つけたのも学生生活の中だったんです。

映画館のアイスクリーム売りのアルバイトをしていたおかげで映画を観ることができた。洋画、邦画、いろんな映画を観ているうちにすっかりトリコになって、決めた。「スターになる!」とね(笑)。

遊川和彦ワンマンショー!

実は、子どもの頃から、人に何か観せて拍手をもらうことが好きだったんです。

高校時代、友達にノセられて、授業中に「遊川和彦ワンマンショー」をやったことがありましてね。先生の物真似や山本リンダの歌真似で、ものすごくウケた。みんながぼくを見て笑ってる。先生も大笑いしてるんです。知ってますか、怒りや悲しみの表情は人それぞれだけど、心から笑ってる人の顔はみんな同じなんです。50人がおんなじ顔で笑ってる。そして、その風景を見ているのは演じているぼくだけ。すごい快感でした。

その後も学園祭の演劇の脚本を書いたり、大学でも大学祭実行委員会に入っ



■遊川和彦さんのプロフィール

1955年東京都生まれ。小学1年生から母親の故郷、大竹市に移住。修道中学・高校から広島大学政経学部に進学。卒業後上京し、テレビドラマ制作会社に入社。30歳で独立。以降、フリーの脚本家として数々の連続・単発ドラマを手がける。2017年には初の監督・脚本映画『恋妻家宮本』が公開された。現在、2作目となる映画の撮影に取りかかっている。

たり、好きなことをやってはいたけど、それで生きていくとは考えたこともなかった。でも、映画館でアイスクリームを売りながら“好きな道で生きていこう”と決めたんです。

あげられるのは自由だけ

東京に行って俳優を目指したいと言ったとき、母親が言いました。「あんたにあげられるのは自由だけ。好きなことをしなさい」。ウチは母子家庭で余裕はないはずなのに、就職しろとは言わなかった。感謝しています。

ただ、自由というのは守ってくれるものが何もないということでしょう。学歴なんか通用しない弱肉強食の世界に人脈も経験もなく飛び込んだから、それはそれで苦勞もしたし挫折も味わった。「スターになる」という当初の目標は、劇団の試験に落ちたときにさっさと捨てましたしね。

とりあえず映画の専門学校に入ったけど、そこで学んだのは「映画をたくさん観ること」と「こんな所に長居しても意味がない、現場を知ること」の2つだけ。やめてテレビドラマの制作会社にAD(アシスタントディレクター)としてもぐりこみましたが、そこは「イヤならやめろ!」とすぐに怒声が飛んでくるようなハードな現場。それでも、好きで飛び込んだんだから、のし上がるしかない。「生意気だ」と言われながらもチーフになり、脚本も書くことになり、30歳を過ぎて、ある程度、やりたいことができるようになった。

もっとも、フリーは「失敗したら次のオファーはない」という世界。今でも映画やドラマをいろいろ観て力を磨いています。ストレッチをしながらね(笑)。

過保護のカホコ

昨年、日本テレビで放送した『過保護のカホコ』。あれは、ぼくの実感をベースにしたものです。

今、日本社会の問題点は「過保護にある」。そうじゃないですか。相手を傷つけるのが恐いから何も言わない。ドラマ制作の現場でも、俳優やスタッフの機嫌を損ねないように気を遣って大事なことを言わない。だから議論が深

まらないし、一緒につくっているという熱気も連帯感も生まれません。過保護がいろんなことを劣化させている。職場でも学校でも家庭でも同じじゃないですか。

確かに、怒られるとすぐに辞めてしまう人は多いけど、だからといって何も言わないのは、人に対しても仕事に対しても愛情を持っていないってことでしょう。ぼくは、言うべきことは言いたい。自分の想いを伝えたい。

『過保護のカホコ』でも撮影現場に出張って主演の高畑充希さんはかなり注文をつけました。彼女はしっかりそれに伝えてくれた。ドラマは、そうやって互いに高めながらつくるものだと思います。

限界を決めない

自分はかなりいい加減だったけど、大学生活に意味がないと思っているわけじゃないんですよ。もしタイムマシンがあって学生時代に戻れるなら、やりたいことがたくさんある。図書館の本を片っ端か

ら読むし、恋愛にも真正面からぶつかる。この年齢になったら振られるのも恐くないですからね(笑)。

ぼくは、人間には無限の可能性があるとと思っています。でも、今の若い人、周囲の目を気にして自分で限界線を引いている人が多くないですか。はみ出さない



ように気を遣うより、本を読み人に会い、いろんなことを経験して自分の人間力を磨くべきです。何かをやりようと思ったとき、それが武器になる。

脚本には生き方が現れます。ぼくの武器は自分の生き方そのものだと思います。

■取材の後で



仁科 勝介(経済学部3年)

単なる世間受けだけでなく、自分の社会に対する思いを曖昧にしないこと。そしてそのために日々の努力を惜しまないこと。熱い信念をもってまっすぐ作品作りに向き合う姿勢に胸を打たれました。ちょうど、自分のあり方を模索しているところだったので、遊川さんのお話に納得したり共感したり刺激されたり……ありがとうございました。

広大ネットワーク

広島大学・千田塾

第8回交流会、2017年11月9日、ANAクラウンプラザホテルで開催

「ビジネス」をキーワードに、全国に広大ネットワークを拡げよう 交流会で山坂会長がアピール

広島大学・千田塾の交流会は、会員の親睦・交流を主目的に年2回開催されてきましたが、昨年の第8回交流会では、今後の会の目標に関する大きな方針発表がありました。

4月から東京の企業で働く予定の前校友会学生チームスタッフが取材、レポートします。



東京で広島大学・千田塾？

報告：妹尾 心（総合科学部4年）

これまでの千田塾では広島在住の社会人によるつながりが中心で、東京に就職する私には縁がなくなると思っていた。しかし、第8回交流会を取材して「いや、私も関わられるかもしれない」と見方が変わった。山坂哲郎会長が「各同窓会などと連携して全国に広島大学・千田塾のネットワークを拡げていく」と発表したのだ。

目標に理解を得るため、沖縄同窓会、関西フェニックスの会からも役員の方が交流会に招待されており、まず沖縄県広島大学同窓会が千田塾の沖縄県支部としても登録されることが発表された。今後、各地に千田塾の支部設立を目指して活動を展開するそうだ。

私のように、企業人としてやっていけるか不安を感じている新卒者にとって、広島大学・千田塾は同窓会同様、気持ちのより所となるのではないだろうか。



ゲストは
「この世界の片隅に」原作者、
この史代さん

広島大学理学部を中退してマンガを描き始めたこの史代さん。現代からの視点で原爆を描いた「夕風の街 桜の国」が大ヒット。さらに「この世界の片隅に」が劇場アニメーション化され、口コミから人気を拡がり異例のロングヒットとなっています。第8回交流会では、ホームカミングデーの司会もつとめたフリーアナウンサーの久保田夏菜さんとトークショーを開催。満員で立ち見も出るほどの大盛況でした。



広大を支える力になりたい



山坂 哲郎 会長

同好会の企画・運営を若い会員に任せなど、もっと千田塾を活性化していきたい。各地の同窓会の皆さん、共に広大ネットワークを拡げスケールメリットを活かして、後輩たちの力となるよう協力していきたい。



沖縄県広島大学同窓会
島尻 雅彦 事務局長

沖縄同窓会は千田塾と以前から交流があり、支部登録についてもいち早く合意に達しました。同窓会の枠を超えた連携の仕方もあるのではないかと考えています。



関西フェニックスの会
西谷 寛 副会長

関西地区在住の同窓生により、広島大学の広報、異業種交流の場の提供、学生の就職活動支援などを行っています。千田塾とどのように連携できるか考えていきましょう。



【広島大学・千田塾についての問合せ先】

広島大学・千田塾事務局

TEL 050-3634-0777

FAX 050-3737-6958

メール info@sendajuku.net



関西
フェニックス

南気象予報士の講演会を開催しました。
「人に言いたくなるお天気豆知識
～広島と大阪編～」

NHK総合テレビ「おはよう日本」(土・日・祝)等の気象情報を担当されている南 利幸 気象予報士講演会を11月23日(木・祝)大阪のドンセンター5F セミナー室2で開催。同氏は広島大学総合科学部環境科学コースを卒業、



同大学院生物圏科学研究科気候学専攻を修了されており、今回は特別講師として、関西フェニックスの会会員相互の親睦及び本会への入会促進のため、講演を行っていただきました。

当日は35名の参加者があり、南気象予報士による広島と大阪の気象にまつわるクイズを交えながらの講演に会場は大変盛り上がりしました。講演後は、南気象予報士を囲んで懇親会を開催し、会員相互で自己紹介及び近況報告が行われました。



東京

広島大学×カープのコラボグッズ
東京オフィスでも販売。

広島大学と広島東洋カープとのコラボレーションで制作したオリジナルグッズ。ホームカミングデーで販売され大好評を博しました。東広島(広報グループ)と広島大学病院(入院棟2階・診療棟1階売店)、霞会館コンビニエンスストアMIDORIで販売していますが、1月から東京オフィスでも買えるようになりました。

販売日時:毎週月曜・火曜・水曜(祝日除く)9:30~16:00
購入方法:電話またはメールでご連絡の上、販売日時に東京オフィスにお越しください。販売は現金のみです。(つり銭の無いようご協力をお願いします)

ご連絡の際、下記をお知らせください。

(1)お名前、(2)ご連絡先、(3)ご購入希望グッズと個数、(4)受取日時
数量限定のため品切れの場合がございます。ご了承ください。



トートバッグ



タオル



Tシャツ

【問合せ先】

広島大学東京オフィス
〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
キャンパス・イノベーションセンター(CIC)409号室
TEL 03-5440-9065
メール liaison-office@office.hiroshima-u.ac.jp



校友会
事務局

校友会員用 Web サービスを
ご活用ください。



広島大学校友会の会員が、パソコンやスマートフォンを通じて24時間、365日、どこからでも情報の登録・変更・会員検索ができるサービスです。正会員の方は、同期会など会員同士の連絡にもご利用いただけます。

※校友会正会員…広島大学の在學生・同窓生・教職員・元教職員で校友会に終身会費(¥20,000)を納付された方

校友会 Web サービスを利用するには
申請手続きを行ってください。

▶ <https://www.hiroshima-u.ac.jp/koyukai/touroku/web>



「校友会だより」のアンケートにご協力ください。

Web上にアンケートを掲載しています。気が向いたときにパソコン、スマホからお答えください。



校友会入会はクレジット決済をご利用ください。

Webサイトからの手続きだけですぐに入会できます。

▶ <https://www.hiroshima-u.ac.jp/koyukai/nyukai/toroku>



転居の際はご連絡を

校友会員が、卒業や異動などで転居した場合は必ず校友会にご連絡ください。「校友会員用 Web サービス」なら24時間365日、どこからでも住所変更が可能です。

ご寄附をありがとうございました。

第11回ホームカミングデーでは多くの方々から広島大学校友会宛にご寄附をいただきました。頂戴したご寄附は、ホームカミングデー経費として使用させていただきます。

寄附をいただいた方	個人67名、団体1団体
ご寄附の額	84万6000円

平成29年度

学生支援報告

広島大学校友会は、会費や寄付金などからなる資金を活用して、校友会員在学生の活動を資金面からサポートしています。その2つの柱が「ドリームチャレンジ賞」と「課外活動援助金」です。校友会員在学生の自主的な申請のなかから審査で採択されたものに対して支援を行います。

平成29年度の支援事業では、ドリームチャレンジ賞57件、課外活動援助18件に対してそれぞれ535万円、384万6600円、計919万6600円の助成金、援助金を贈りました。

●ドリームチャレンジ賞の申請については5ページから特集でご紹介しています。また、それぞれの支援を獲得して活動する学生たちの姿を9・10ページ「校友会 SUPPORT FILE」でご紹介しています。ご覧ください。

●第11回ドリームチャレンジ賞

広島大学校友会と広島大学同窓会が主催する支援事業です。



第11回ドリームチャレンジ賞授与式（平成29年9月25日）



越智学長から代表者に表彰状が手渡された

●第11回課外活動援助金

全国・世界的規模の大会に出場した課外活動団体に遠征費、奨励費を援助します。（第11回課外活動援助金授与式は平成30年2月19日に行われました。）

第11回ドリームチャレンジ賞受賞者と活動テーマ

体育会漕艇部	大島 稜平	全日本大学選手権大会において、一重クルー入賞及びその他クルー準決勝進出の達成
教育学研究科	小松 和佳	保幼小合同保育カンファレンスが参加者に及ぼす影響とは？～学びの連続性を共通理解する視点から～
国際医療研究会COCO	川浪 美希	国内外の諸問題に興味を持ち、実際に様々な地域に赴くことを通じて視野を広げ、グローバルに活躍できる医療人としての資質を高める
ESS (English Speaking Society)	河野 寛大	英語劇公演
医歯薬バドミントン部	福井 一輝	車いすバドミントン競技の普及活動
MOG (My Original Guitar)	来田 直也	オーダーメイドギターを題材に起業する
Lingua franca	田代 涼	被ばく者と若者が語りあう場を
交響楽団	前田 七海	地域における音楽活動 —ひろしまに根ざしたオーケストラを目指して—
総合科学部	齋尾 健将	教科書を通して、途上国の子どもたちと広島大学の学生、両方の成長機会をつくる
書道部	竹馬 佑香	書道パフォーマンスを通して書道をより身近に感じてもらう
体育会女子バレーボール部	駒田 愛美	女子バレーボール部 今年に懸ける！【武者修行】全日本インカレ優勝への道！
体育会硬式ソフトボール部男子	櫻井 光太郎	5年連続で全日本大学ソフトボール選手権に出場し、ベスト4以上を目指す！
教育学研究科	吉岡 真梨子	広島大学の多様化推進に向けたAlly チャレンジ
Rhythmic Dance Club	津中 友里菜	地域貢献・ボランティア活動による広島ダンスシーンの盛り上げ
教育学研究科	難波 修史	計算処理論的モデルアプローチを用いた認知プロセスの実証的研究—解釈を目指せ—
わくわく	長尾 沙也加	地域交流×国際交流ツアー
体育会自動車部	小笠原 久斗	若者へのモータースポーツの普及のための全国制覇
教育学研究科	小林 亮太	心のゆとりとは何か？—日本人らしい幸せを探る—
おもしろ運営委員	松下 健祐	学生と教職員・地域のつながりを生み出すブックスベース作り
校友会学生チーム	住平 稜太	第11回ホームカミングデーならびにフラワーフェスティバル広島大学校友会学生チームの企画・運営
生化学若手の会 中四国支部	本間 りりの	中四国地方での生命科学に関する学術的なセミナー開催
体育会軟式野球部	洲上 岳	部活動実施状況の改善
体育会男子バレーボール部	遠藤 靖崇	男子バレーボール部 マネージャーノートの電子化で目指す西日本インカレベスト8！
アカベラサークル Plaza de España	橋本 陽	Plaza de España Circle Live2017“彩”
体育会馬術部	田畑 美奈子	地域に開かれた馬術部
学生フォーミュラ Phoenix Racing	谷口 果菜	全日本学生フォーミュラの挑戦。岡山走行会での走行
教育学研究科	重松 潤	「腑に落ちる理解」の視点から「考え方」と「行動」の変化を捉える—公認心理師時代に光を照らすために—
霞管弦楽団	泉 亮介	オーケストラ活動を通して医療従事者としての基盤をつくる
教育学研究科	日原 尚吾	第三の研究法の導入:混合研究法の学習と日本の心理学研究への適用
女子ラクロス部	杉原 みのり	中四国ラクロスリーグにてベスト4を目指す。
「広島を継ぐ会」	福原 潤	「県外出身者が、地元で紡ぐ“ヒロシマ”」
生物園科学研究科	森島 慎也	シャコガイ類を使ってサンゴ礁を保全する！
教育学研究科	阿部 聡生	小学校外国語活動における児童と留学生との交流の機会の提供、及びその教育的価値の検証研究
教育学研究科	吉良 悠吾	大学生の健康で充実した就職活動を支援するための研究活動
教育学研究科	保井 良介	インド・カルカッタの、マザーテレサの家(死を待つ人の家)でのボランティア活動
体育会ヨット部	山本 依久美	広島大学体育会女子ヨット部 全国で活躍できる女子セーラーを目指して
体育会フットサル部	伊藤 慎一郎	フットサル競技の普及とスポーツ競技指導者の育成 ~50年続く、広島大学体育会を代表する魅力あふれる部活動を目指して~
Smiles Production	船越 悠里	インド教育支援を私たちの手で ~自分らしい生き方への挑戦を~
教育学研究科	加藤 美幸	うつ病リスクの個人差を脳から見ることで精神医療に貢献する基礎研究の拡大
スクーバダイビングクラブSEAQUA	佐藤 初	スクーバダイビングを用いた海底清掃
人力飛行機製作チーム HUES	宮本 真衣	人力飛行機の設計・製作
合唱団	小島 康弘	合唱芸術を通じた地域活性と平和の希求
教育学部	町原 理紗	食物アレルギーをもつ子どものデイキャンプ
教育学研究科	三木 あかね	非意識的過程と意識的過程の関係についての検討
学生ボランティア団体 OPERATIONつながり	京谷 竜輝	被災地の学びを学生に伝える。
女子硬式ソフトボール部	田中 亜実	体育会 女子硬式ソフトボール部の活動の充実化
HUDIC	田崎 萌亜	互いに学びあう国際交流
総合科学部	川村 優佳	カウンセリングを受けられない世界中の人達への、VRを用いたカウンセラーAIシステムの開発とグローバル展開
理学部	竹本 健悟	西条における河川の外来種の駆除と在来種の保護(三年目)
1st penguin club	畦原 夏海	料理動画投稿アプリの開発
歯学部	前川原 思惟子	ただいま、おかえり。つながりが途絶えてしまった子どもたちに新しい絆を結ぶ場所を。
体育会ヨット部	元川 凱喜	広島大学体育会ヨット部 全日本インカレ各クラス10位を目指して
体育会サッカー部	平本 倫太郎	沖原チャレンジカップの大会賞維持のために
映画制作ところ	太田 貴大	東広島映画祭の開催
教育学研究科	平本 亮介	心理学研究室における仮想現実技術を用いた研究の提案と実践
吹奏楽団	平野 雅貴	楽奏
霞アダプテッドスポーツクラブ	山本 千絵美	障がい者のスポーツの普及活動

第11回課外活動援助金被授与団体

- アカベラサークル Plaza de España (PDE)
- エスキーテニス部
- 弓道部
- 剣道部
- 硬式ソフトボール部 (男子)
- 自動車部
- 水泳部
- 水中ホッケーサークル
- 漕艇部
- 卓球部
- トライアスロン部
- 馬術部
- バスケットボール部 (男子)
- バスケットボール部 (女子)
- バレーボール部 (男子)
- バレーボール部 (女子)
- ヨット部・女子ヨット部
- 陸上競技部